

2022 年度事業活動報告

2023 年度事業計画



特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

～ ご挨拶 ～

日本において、肢体不自由の子ども達は10～30万円もする高価で高性能の車椅子に乗ることができます。90%もの公的補助金が出るお蔭で、肢体不自由児を抱える多くの親は、軽微な自己負担で済むのです。私自身も障害児をもつ親の一人として、この恵まれた環境に大変感謝しています。



ところが、子どもが成長すると車椅子は相対的に小さくなり、2～3年で乗り換えねばなりません。そうして高価な車椅子は、廃棄処分の運命におかれるのが現状です。私の子どもは脳性麻痺ですが、こうした買い替え時期を迎えるともったいなくて壊れてもいない子ども用車椅子を捨てることができず頭をかかえていました。捨てるには車椅子の状態があまりに良いのです。

日本では捨てられてしまう運命の車椅子は粗大ごみ扱いでしょうが、海外の肢体不自由の子どもにとっては宝物です。家から出ることができない生活に苦しんでいる子ども達を一人でも救い、自由に動き回れる移動手段を提供したいと思います。高価な車椅子に乗ることは彼等にとっては夢のような話なのです。障害のある子ども達が車椅子を手に入れて行動範囲を広げ、地域の人々と広く交流し、お互いの理解を深めて豊かな人生を送って欲しいと願っています。

どうか、多くの方々にこのような日本と海外の現状をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りたいと思います。体を動かせない子ども達にとっての「夢の乗り物」、これが子ども用車椅子です。私は一台でも多くの子ども用車椅子を日本から送り出し、彼らの笑顔を見たい、そのような姿を頭に描きながら、力の限り日々活動に取り組んでいます。

会長 森田 祐和

2022 年度事業報告

はじめに

2022 年度の大きなトピックスは、国内 NP0 の 3 団体協同でのウクライナへの車椅子の贈呈です。ロンドン在住のジャーナリスト木村夫妻の呼びかけで始まったこの人道支援は、多くの賛同者の支援を得て実現しました。それは 2023 年度も継続しています。

2022 年度の車椅子の収集台数は、コロナ禍が影響しているのか前年比 61%と落ち込む結果でした。支援学校への車椅子提供の声かけが十分ではなかったことが原因と思われます。

車椅子整備活動である例会については、コロナ禍のために 8, 9 月の 2 か月間に渡って開催できませんでした。それでもミニ例会を 20 回開催することができ、整備完了台数は 105 台で前年比 188%となりました。

また、発送台数は 467 台で前年比 98%でした。前年度並みの台数確保ができたのは、未整備で送っても受け取ってくれて自ら整備できるパートナーに送ることができたからです。

2022 年度の課題は、収入額の減少です。総収入は前年比 75%と大きく落ち込みました。特に一般企業や個人からの寄付金が前年比 52%と大幅なダウンでした。より安定した財政基盤の確立が急務となっています。

1. 車椅子収集事業

肢体不自由児が通う特別支援学校や療育施設などの保護者や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、今年度は、「首都圏の特別支援学校」から 292 台の提供を受けました。個人からの提供も含めて 2022 年度の全収集台数は 340 台で、前年比 61%の大幅減となりました。

2022 年度の車椅子の収集台数

都・県	(学校数)	2019 年	(学校数)	2020 年	(学校数)	2021 年	(学校数)	2022 年	(学校数)
東 京	(24)	143 台	(10)	116 台	(10)	178 台	(14)	100 台	(11)
神奈川	(19)	131 台	(7)	37 台	(4)	159 台	(11)	48 台	(6)
埼 玉	(10)	105 台	(5)	10 台	(1)	105 台	(6)	58 台	(4)
千 葉	(6)	67 台	(3)	69 台	(5)	73 台	(4)	86 台	(5)
小 計	(59)	446 台	(25)	232 台	(20)	515 台	(35)	292 台	(26)
その他学校、団体等		30 台	—	59 台	—	12 台	—	13 台	—
個 人		6 台	—	34 台	—	32 台	—	35 台	—
総合計 (前年比)		482 台	(85%)	325 台	(67%)	559 台	(172%)	340 台	(61%)

(「小計」は首都圏の特別支援学校からの提供台数 学校数は 2023 年 2 月全国障害学生支援センターより)

2022年度の「首都圏エリアの特別支援学校」からの車椅子の提供（前頁表中の「小計」を参照）は、台数と提供学校数の双方で、その数字が大きく減少しました。台数は前年比57%です。これは、東京と神奈川の提供学校数が昨年の25から17に減少したことがその主な要因です。東京、神奈川の支援学校だけで前年は337台だったのが148台（前年比44%）と大きく減少しています。この原因は、当会の各支援学校への呼びかけが不足していたためと考えられます。

一方、首都圏以外の学校や一般の団体及び個人からの提供は50台弱で前年度並みでした。今後も皆様からの継続的な車椅子の提供をお願いします。
（提供方法は当会のホームページをご覧ください <http://kaigaikurumaisu.org/>）

○車椅子収集の様子

＜東京都立大泉特別支援学校＞

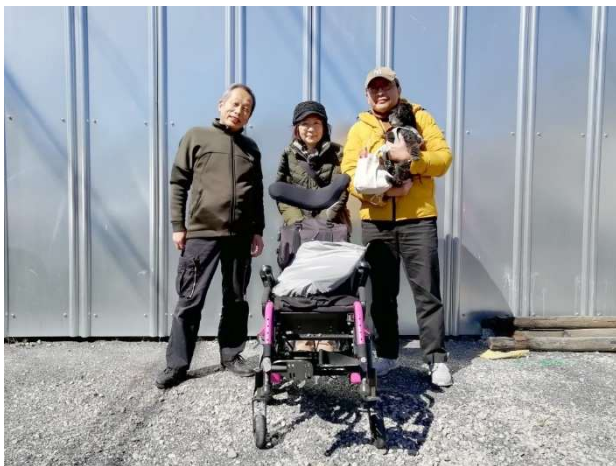


学校のエントランスにずらりと並べられた34台の車椅子です。この後PTAの役員と学校の先生方が、「学校名」のシール貼りと車椅子のトラックへの積み込みを手伝ってくれました。

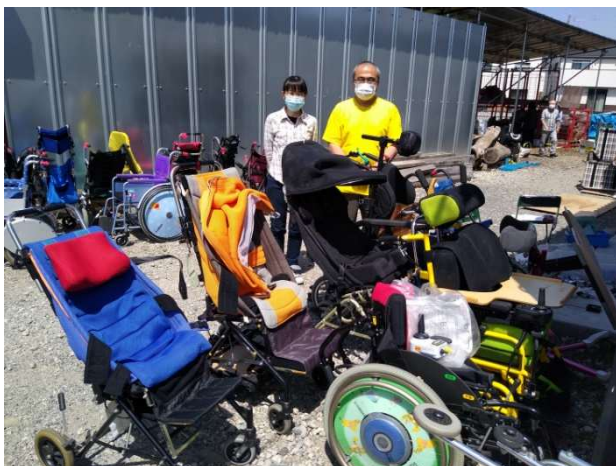


積込んだ車椅子を背景にPTA役員と学校の先生方の皆さんと記念撮影です。

＜個人による倉庫への直接持ち込み＞



ここ数年で、例会の開催に合わせて車椅子を持ってきてくれることが定着しています。30～50台／年程度が届けられるようになっていきます。受け取りに際して、手放す理由を伺うことがあります。子どもが成長して体に合わなくなった、子どもが亡くなった、など様々です。一致しているのは「使っていた子どもを思うと手放したくないが、海外の子どもたちの役に立つならぜひ送って欲しい」という声です。



（左）介護支援事業所で働く稲垣さんは、ご夫婦で年に数回ほど車椅子、バギー、ウォーカー、立位訓練器などを届けてくれます。大助かりです。

（右）当会の「コーディネーター」で、年に何回か車椅子を届けてくれる永峰さんです。他の人にも声をかけて、数台を自分の車に乗せて持ち込んでくれます。有難いです。



2. 車椅子整備事業

コロナ禍により例会活動が大きく制限されたのは、2021 年度と同様でした。「ミニ例会」という相模女子大メンバーとベトナムチームメンバーに限定しての少人数での活動を 2 回／月の頻度で開催しました。

2022 年度におけるミニ例会の月別開催状況

開催月	2022 年									2023 年			年間 合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
回数	2	2	2	2	0	0	3	2	2	2	2	1	20

8、9 月はコロナ禍のために開催できませんでしたが、その他の月はほぼ 2 回／月の頻度で開催できました。1 回の例会での参加者人数を 5～8 名／チームに制限して、日程は第 2、第 4 日曜日に固定しました。それぞれのチームに参加可能人数を打診しながら開催しました。5 名を大きく超える場合は、減らしてもらう調整もしました。また、ワクチン接種済みも参加の条件として設定しました。これにより、活動参加者は、延べで 290 人と前年比 190%と大幅に増えました。また、延べの整備台数も 105 台と前年比 188%と伸ばすことができました。

＜整備作業の様子＞



（左）活動前にアルコール消毒と検温を行い、参加票に記入をしてもらいます。万が一、例会活動でコロナ感染が確認された場合は、緊急連絡を電話で行います。



（右）車椅子を裏返しにして、丁寧に汚れを落とします。



（左）汚れを完全に取り除くために車輪を外して清掃します。



（右）赤点線丸で囲った機器は、150℃の蒸気が出るスチーム・クリーナーです。頑固な汚れを高温スチームできれいにします。目標は「新品同様に！」です。



(左) 5月に入ると暑さが厳しくなりました。まずは、所有していたテント2張を設置しました。
 (右) テントだけでは作業スペースが足りないので、「タープ」を用意しました。広い日影を確保できかつ風通しも良く快適に作業ができるようになりました。

＜特別ミニ例会の様子＞



日興アセットマネジメント株式会社のみなさん

日興の社員の皆さんは、寄付金に加えてこのように整備活動にも参加をしてくれます。また、同社からは、集まった社員からの寄付金と同額の寄付をいただいています。会社と社員の皆さんが一体で当会を支援してくれています。



ブルームバーグ



MFS インベストメント・マネジメント株式会社

（左上）ブルームバーグの人から、「当会に興味があり活動参加を検討している」との連絡があり、体験例会を設定しました。車椅子の清掃作業を6名の社員に体験してもらいました。ほとんどの皆さんが子ども用車椅子に触るのは初体験ですが、オフィスでのデスクワークとは違って外での汗をかきながらの作業は新鮮だったようです。暑い中でも積極的に取り組んでくれました。「それを取り外せば、もっときれいにすることができるのでは」と外せるものはできるだけ多くの部品を外すことに挑戦し、「新品同様に！」清掃ができた車椅子もありました。（2022年7月2日開催）

2022年11月22日にも同社の11人の皆さんがマイクロバスで倉庫に来て、清掃作業をしてくださいました。

（右上）MFS インベストメント・マネジメント株式会社の15人の社員の皆さんが10時前から拝島倉庫に集まってくれました。同社の皆さんには、Zoomを使って「当会の活動紹介」を行いました。その時に「勉強だけでなく、実際の活動に参加したい」と申し出があり、この日に実現したものです。

作業が始まると「もっときれいにしたい。良い道具はありませんか」と質問が出るほど一生懸命で、手際よくカビ取り剤とスチーム・クリーナーを使用して頑固なカビ取りにも取り組んでくれました。（2022年10月15日開催）

＜外での昼食は格別です＞



ミニ例会を支えてくれる相模女子大チーム（左）とベトナムチーム（右）の昼食風景です。

3. 車椅子発送事業

コロナ禍は贈呈先のパートナーにも深刻な影響を与えています。2022 年度も「受け取っても子どもたちに届けることができない」という状況でした。そんな中でも、「未整備でもよい」というパートナーもあり、そうした国を中心に贈呈をしました。従って、現地での贈呈式などの記念イベントは 2021 年度に続き開催できていません。

2022 年度寄贈実績（2022 年 4 月～2023 年 3 月まで）

パキスタン(*)	2022 年	4 月	80 台	マイルストーン特別な人のための協会
タイ RICD(*)	2022 年	7 月	180 台	Rajanagarindra Institute of Child Development
モンゴル	2022 年	8 月	25 台	Universal Progress 自立生活センター
ウクライナ	2022 年	10 月	12 台	ウクライナ・フードバンク連盟
パキスタン(*)	2022 年	10 月	37 台	マイルストーン特別な人のための協会
ウクライナ	2023 年	2 月	10 台	Future for Ukraine Foundation (FFU)
マレーシア(*)	2023 年	2 月	40 台	Aleps Dream Factory (ADF)
フィリピン	2023 年	3 月	83 台	J V R 財団 (Jesus V. Del Rosario Foundation)
合計			467 台	

(*) パキスタン、タイ、マレーシアには車椅子を未整備のまま送付しました。

贈呈した車椅子 467 台のうち、337 台は未整備のままパートナーに送りしました。72%の比率です。コロナ禍で大人数が集まることができないため、清掃・整備・安全確認の作業を行うことができませんでしたので、自前でその作業を行うことができるパートナーに送ることを優先して行いました。

<タイ Rajanagarindra Institute of Child Development (RICD) への発送>

当会にとってタイの第 2 のパートナーとなった RICD に 180 台の子ども用車椅子を発送しました。2022 年 7 月 19 日に東京港を出て、コンテナが 8 月 17 日に RICD に到着しました。

RICD は、唯一海上輸送の費用負担をしてくれるパートナーです。加えて、車椅子の清掃・整備を完璧にこなす技術力・組織力を持っています。また、子どもたちへの支援（特に、子どもの成長に合わせて車椅子を替えるなど）も完璧に対応してくれるので、当会にとってありがたい存在です。



(左) 多摩包装工業㈱の倉庫のパレットに載せられた 180 台の車椅子がコンテナを待っています。
(右) 次々にフォークリフトを使ってコンテナに積み込みます。



(左) コンテナを開けたときの荷崩れ防止として格子蓋を設置します。

(右) 180 台の車椅子を載せたコンテナを牽引したトラックが東京港に向かいました。



タイの港から到着したコンテナから車椅子を降ろし、RICD の倉庫に運び込みます。



全ての車椅子が倉庫内に並べられました（左上）。車椅子と管理番号（当会がすべての車椅子に管理番号シールを貼っています）の確認作業をして（中上）、RICD 用の車椅子の管理シートを作成しています。また、車椅子の動作確認（右上）も行っています。この写真を見て分かるように RICD には世界中からボランティアが集まって活動をしています。RICD で車椅子プロジェクトの責任者である Joey Tell 氏は、活動のためにアメリカからタイに来ています。

＜モンゴルへの発送＞

当会を含む下記の5団体は、協同してモンゴルに大人用115台、子ども用25台、合計140台の車椅子を送りました。今回のモンゴル向けプロジェクトは、NPO法人 さくら車いすプロジェクト代表の斎藤氏の呼びかけで始まりました。2022年8月4日（木）に車椅子を積載した本船が神戸港を中国の天津に向けて出発しました。天津から最終目的地のウランバートルまでは陸路をトラックで運びます。

NPO 法人 さくら車いすプロジェクト	}	75 台	
福山市神辺町の障害者団体「CIL・かなべ」			
NPO 法人 希望の車いす		30 台	
NPO 法人「飛んでけ！車いす」の会		10 台	
NPO 法人 海外に子ども用車椅子を送る会		25 台	
		合計 140 台	



全車椅子が広島の倉庫に集められ、コンテナに積み込まれました。

＜ウクライナへの発送（1回目）＞

日本で暮らしているウクライナ人のトカル・レーシャさん（写真右）が、子ども用車椅子をウクライナに送りたいと当会を訪れました。12台の子ども用車椅子を選び、贈呈しました。車椅子は2022年10月3日に他の支援物資と共にコンテナに積み込まれ、10月10日にポーランドのグディニャ港に向けて東京港を出しました。ポーランドには2か月程度かかり、そこから更に陸路でウクライナのキーウに運ばれます。送り先は、ウクライナ・フードバンク連盟です。既に車椅子はウクライナに到着していると思いますが、残念ながら報告はありません。戦争下にあり、安全が脅かされていることを考えると報告書を願うことは控えています。



＜ウクライナへの発送（2回目）＞

国内NPOの3団体協同によるウクライナへの車椅子150台を積載した船が2月6日（月）18:00に東京港を出ました。ドイツのハンブルク港を経てポーランドのグディニャ港には3月14日頃に到着する予定です。ポーランドに拠点を置く車椅子の受け取り手であるウクライナの人道支援組織Future for Ukraine Foundation (FFU) に届けられ、ポーランド国内に避難しているウクライナ人や、ウクライナで暮らす人々に供与されると思われます



3団体が準備できたのは下記の車椅子です。

・希望の車いす	主に大人用車椅子	110台	
・飛んでけ！車いすの会	主に大人用車椅子	30台	
・海外に子ども用車椅子を送る会	子ども用車椅子	10台	合計 150台

2回目のウクライナへの発送はロンドン在住のジャーナリスト木村ご夫妻の熱心な車椅子提供の要請があり、戦禍で苦しんでいるウクライナの人たちを支援したいという思いが繋がり、車いすを寄贈している3団体と海運会社、運送会社が協力してのプロジェクトとなりました。特に木村ご夫妻は、現地のウクライナに出向き、今どのような車椅子がどのくらい必要か、どの相手に届けることができるか、本プロジェクトの実現に必要な海運などの関連会社から支援を取り付けるなど、大活躍してくれました。

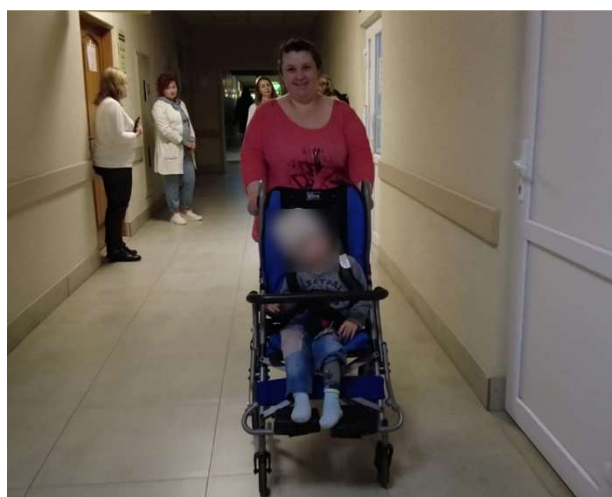
○ウクライナを訪れた木村夫妻からの報告書の写真

Japanese Wheelchair Project for Ukraine



(左) 木村氏から届いた現地の様子を知らせる報告書です。

(右) 車椅子に貼られている当会と相模女子大のシールの写真も届きました。



当会からの車椅子に乗るウクライナの子どもたち。

4. 活動広報事業

当会の贈呈先での活動の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々にお伝えするために、「活動報告レポート」を発行しています。年間計画では4回の発行を目指していましたが、コロナ禍による活動制限のために2回の発行（第27、28号）実績となりました。また、現地での贈呈式などのイベントも開催できないため、その報告もありません。

当会のホームページでは、活動の様子をタイムリーに広報するよう努めていますので、随時ご参照ください。 <http://www.kaigaikurumaisu.org>

さらに、当会の事業内容を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しています。当会の考え方に始まり、具体的な活動内容について写真や図を使い説明しています。冊子が必要な方は事務局へご連絡ください。 hp-admin@kaigaikurumaisu.org

冊子の内容はホームページ「フリー ペーパー」にも掲載しています。ダウンロードして印刷することも可能です。

5. 財務状況について

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集します。それらを整備し、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1台平均約1.4万円かかります。それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者（個人及び団体）の寄付金と民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

2022年度の当会の財務状況

2022年度当初よりコロナ禍の影響で収入は厳しくなると予測していました。予想通り、総収入は前年比75%にとどまりました。原因は、寄付金収入が前年の52%と極めて低調だったことです。寄付金は、一般企業や個人の善意によるものです。コロナ禍により、一般企業の経営環境や個人の生活環境が厳しいために当会への寄付金が減少したものと考えています。

そのような中ですが、米国系金融関連企業の大規模支援がありました。この支援が無かったら、当会の活動継続が危ぶまれるところでした。この場を借りて大規模支援をしてくれた企業に改めて感謝したいと思います。

一方で、事業費の支出面ではほぼ前年並みに抑えることができました。その理由は下記の3点です。

- ①関係団体との協同プロジェクトでの発送運賃のシェアによる費用負担の軽減
- ②パートナーによる運賃負担
- ③発送国数の削減

これらにより、車椅子発送事業費を計画比77%、前年比80%とすることができて、次年度繰越金の計画を上回りました。

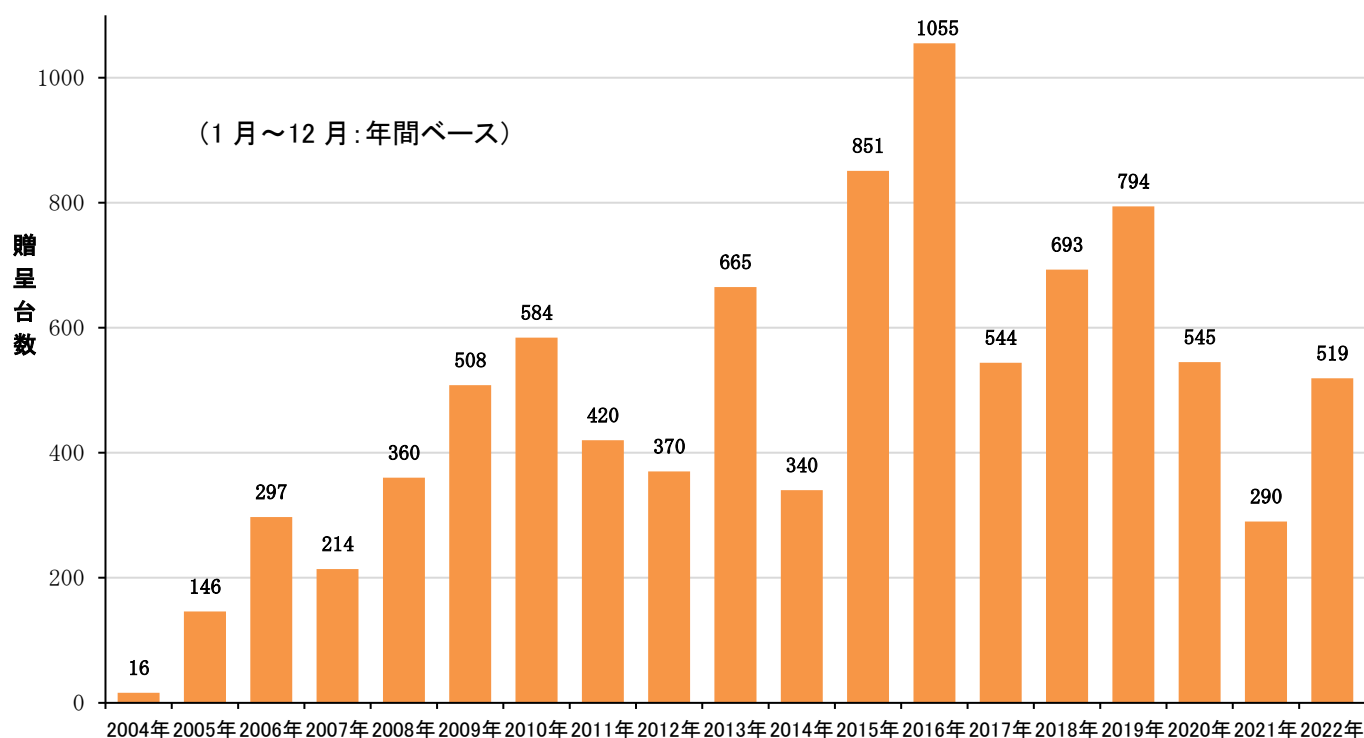
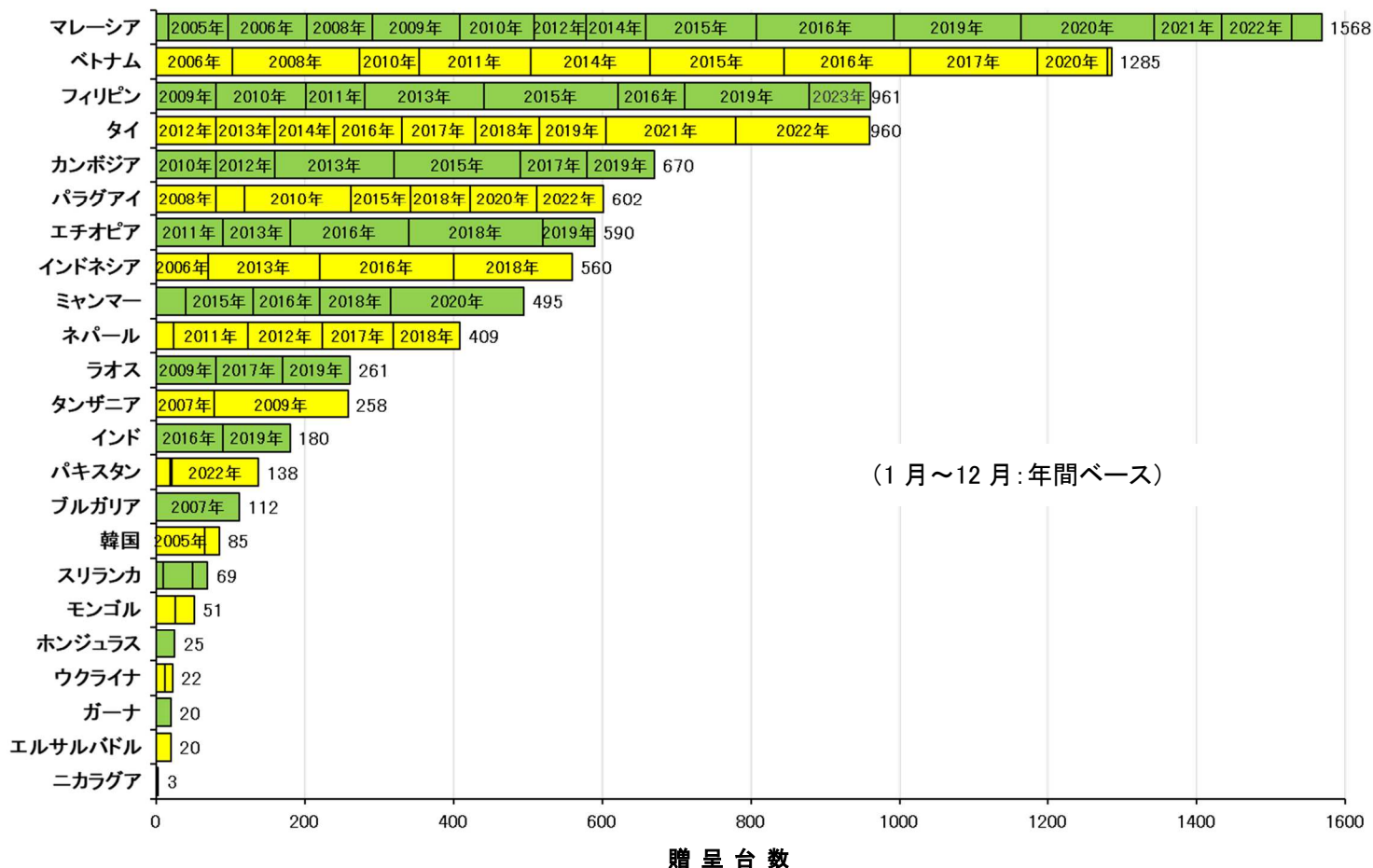
その他の管理費面では前年比130%とやや増えました。その主要因は雑費の増加です。倉庫の電力容量が不足して様々な機器を同時に使えないという不便さがあったために電力容量増加の工事代がかかりました。これは必須の工事でしたので実施しました。



NPO 法人

海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績 26 ヶ国 9,344台 (2023年3月末現在)



2023 年度 事業活動計画

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校の定期的かつ継続的な収集協力を得て、昨年度以上の台数確保を目指す。ただし、当会の倉庫の車椅子収容台数には限界があるので、在庫を正確に把握しながら収集活動を展開する。収集目標は昨年の計画と同じ 400 台（前年実績比 118%）以上を目指す。

2. 車椅子整備事業

- ・相模女子大チーム、ベトナムチームを中心としたミニ例会を継続して開催する。その開催数は 2 回／月の頻度で開催して、年間 24 回を目標とする。
- ・ミニ例会での目標の整備完了台数を確保できない場合は、作業の外部委託も検討する。

3. 車椅子発送事業

2023 年度の財政状況はかなり厳しくなると見込まれる。出費を抑え込むことに注力するために、贈呈台数は 300～350 台（前年実績比 75%）程度とし、贈呈国数も 2～3 か国とする。

4. 活動資金確保活動

- ・広報活動の拡充による会員数の増加を図る。
- ・新たな民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す。

5. 活動拠点改善事業の取り組み

- （1）当会の倉庫であり、活動拠点となっている拝島倉庫の地面のアスファルト化の検討
現在の土の上での車椅子の清掃は、汚れが付きやすい。清掃をしても土の上を移動させることでまた汚れる。地面をアスファルト化できればその懸念が解消できるが、費用が高額であるため、その実現に当たっては慎重に検討する。
- （2）車椅子収容スペースの拡充
現在の倉庫の車椅子収容能力は 200 台程度である。この能力では、車椅子回収依頼が集中する春休み、夏休みなどでは倉庫がすぐに満杯となり、収容不能となる。こうした事態を避けるために現在の倉庫の拡張や新たな倉庫の確保を検討する。

6. 活動広報事業

- ・「活動レポート」は年間で昨年度と同様 1～2 回の発行を目指す。
- ・ホームページではタイムリーなお知らせやトピックスにより当会の活動の様子を周知する。

本年度も、一台でも多くの子ども用車椅子を海外の子ども達に届けたいと思います。
皆様のご支援をよろしくお願いします。

過年度実績と2023年度収支計画（4月1日～3月31日）

（単位：円）

項 目	2021年度		2022年度		2023年度	
	実 績	前年比	実 績	前年比	計 画	前年比
前年度繰越金	6,761,954	158%	9,646,109	143%	10,363,372	107%
収入の部						
会費収入	400,000	114%	274,000	69%	300,000	109%
公的助成金収入	0	—				
民間助成金収入	2,474,600	78%	3,092,240	125%	2,500,000	81%
寄付金収入	5,081,762	198%	2,627,298	52%	2,500,000	95%
利息収入	46	177%	62	135%	62	100%
雑収入	0	—				
収入総額	7,956,408	98%	5,993,600	75%	5,300,062	88%
支出の部						
1. 事業費						
車椅子収集事業費	637,380	128%	1,110,062	174%	1,000,000	90%
車椅子整備事業費	1,201,541	85%	1,306,189	109%	1,500,000	115%
車椅子発送事業費	2,363,631	80%	1,918,939	81%	2,500,000	130%
活動広報事業費	489,455	215%	456,547	93%	300,000	66%
事業費合計	4,692,007	92%	4,791,737	102%	5,300,000	111%
2. 管理費						
事務消耗品費	20,664	187%	30,630	148%	30,000	98%
消耗品費	9,895	17%	14,191	143%	10,000	70%
水道光熱費	0	—				
旅費交通費	17,894	36%	36,995	207%	25,000	68%
支払手数料	34,592	95%	38,450	111%	38,000	99%
交際費	27,180	101%	4,249	16%	5,000	118%
支払保険料	58,340	47%	88,720	152%	90,000	101%
通信費	36,759	108%	51,028	139%	50,000	98%
複写費	92,034	128%	4,528	5%	5,000	110%
会議費	14,758	20%	18,145	123%	20,000	110%
諸会費	0	—				
雑費	68,130	235%	197,664	290%	50,000	25%
管理費合計	380,246	74%	484,600	127%	323,000	67%
総支出額	5,072,253	91%	5,276,337	104%	5,623,000	107%
次期繰越金	9,646,109	143%	10,363,372	107%	10,040,434	97%

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2022年9月 第27号



パキスタン マイルストーン協会に 車椅子80台を贈呈へ

2022年4月
NPO法人「さくら車いすプロジェクト」と共同で発送

車椅子を協同でパキスタンへ送った「NPO法人さくら車いすプロジェクト」は、2011年に設立され、アジア各国の障害者リーダーに中古電動車椅子を送る活動を継続的に行ってきています。特にパキスタンと関連が深くこれまでも多くの電動車椅子を送っています。今回は、同プロジェクトの90台の電動車椅子の送付と一緒に、当会からは80台の手動子ども用車椅子を送りました。送り先は、パキスタン・ラホール市の「マイルストーン特別な人のための協会」(MILESTONE Society for the special persons)です。彼らは、「障害者(Disabled Persons)」の呼称を「特別な人(Special Persons)」に改める運動を展開していて、組織の名称にも「特別な人」を用いています。

マイルストーン協会は、「特別な人」への車椅子提供による支援はもとより、現地での車椅子の補修、整備を障害者自らがを行い、更に車椅子の生産も行っています。今回の子ども用車椅子は、未整備でお届けし現地での整備、再生をマイルストーン協会に実施してもらいます。技術力があるので安心して任せることができます。さくら車いすプロジェクトが手配してくれたパキスタンへの船に車椅子を載せるため、4月2日に茨城県坂東市で車椅子のコンテナ積み込み作業を同プロジェクトの皆さんと一緒に行いました。



下段に電動車椅子、上段に子ども用車椅子



左のコンテナから子ども用を移し替えます



コンテナに全ての車椅子を積み込み記念撮影



タイ RICDに車椅子180台を未整備で贈呈へ

2022年7月 Rajanagarindra Institute of Child Development (RICD 車椅子プロジェクト)へ発送

当会にとってタイの第2のパートナーとなったRICDに向けた180台の子ども用車椅子を積み込んだ本船は、2022年7月19日に東京港を出ました。約1か月後の8月17日にタイのRICDに到着しました。車椅子は未整備で送っていますので、RICDではこれから清掃・整備に取り掛かり、それが完了した車椅子から子どもたちへの供与を順次開始することです。車椅子を受け取る子どもたちは、車椅子の到着前にすでに決定しているそうです。こうした活動を聞いたり、送られてきた写真を見るとRICDの組織力を感じます。



港から到着したコンテナから車椅子を降ろし、倉庫に運び込みます。運び込んだ車椅子を早速点検して、RICDとしての車椅子管理シートを作成しています。



モンゴル Universal Progress 自立生活センターに車椅子25台を贈呈へ

2022年8月 NPO5団体は、協同して大人用車椅子115台、子ども用車椅子25台、合計140台の車椅子を発送

当会を含む下記の5団体は、協同でモンゴルに大人用車椅子115台、子ども用車椅子25台、合計140台の車椅子を送りました。今回のモンゴル向けプロジェクトは、NPO法人 さくら車いすプロジェクト代表の斎藤氏の呼びかけで始まりました。これまでも各団体は個別に連携するなどの関係はありましたが、今回のように5団体が揃って海外に車椅子を送るのは初めてです。

- ・NPO法人 さくら車いすプロジェクト
- ・福山市神辺町の障害者団体「CIL・かんなべ」
- ・NPO法人 希望の車いす
- ・NPO法人「飛んでけ！車いす」の会
- ・NPO法人 海外に子ども用車椅子を送る会

車椅子の受取人である「モンゴルUniversal Progress 自立生活センター」は、2008年に日本のダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成研修に参加したウンドラハバヤール氏が2010年に設立したモンゴル初の自立生活センターです。アドボカシー活動(政府への政策提言、様々な課題に対してのキャンペーンや広報活動など)、バリアフリー運動、自立生活運動、自立生活プログラムの実施、介助サービス制度の促進、社会参加の呼びかけ、ピアカウンセリング、社会の意識改革促進など、様々な活動を実施しています



5団体が協同でモンゴルへ贈呈する車椅子が福山に集結し、コンテナに積み込まれました。

下記は上記の贈呈に車椅子を提供してくれた学校等の名前です

神奈川県立平塚養護学校
東京都立八王子東特別支援学校

さいたま市立ひまわり特別支援学校
東京都立小平特別支援学校

県立麻生養護学校
緑成会整育園通所センター
(この学校名リストは10台以上の車椅子提供学校のみです。他に18校からの提供がありました)

国立千葉東病院
むらさき愛育園

横浜市立上菅田特別支援学校

海外に
子ども用
車椅子を
送る会活動
レポート
2023年3月 第28号戦争下にあるウクライナの子どもたちに
12台を贈呈へ

2022年10月 日本で暮らすウクライナ人のトカル・レーシャさんからの要望

2022年9月、日本で暮らすウクライナ女性トカル・レーシャさんから「ウクライナに子ども用車椅子を送りたい」という要望がありました。拝島倉庫で子ども用車椅子を見てもらうと「素晴らしい。大人用車椅子は手に入るが、子ども用は見つからなかった。ぜひともウクライナに送りたい。」とのこと。急な話で十分な清掃・整備ができませんでしたが、比較的きれいな12台を選び、タイヤ、虫ゴム、ブレーキの確認をして贈呈することにしました。送り先は、ウクライナのキーウに拠点を置くウクライナ・フードバンク連盟です。「連盟の活動目的は、ウクライナの最も社会的に脆弱な市民、恵まれない子供たち、障害のある子供たちに支援を提供することです。」戦争という最も過酷な環境にある障害を持つ子どもたちが車椅子を手に入れて無事に暮らせることを祈ります。



トカル・レーシャさん



パキスタンマイルストーン協会に車椅子37台を贈呈へ

2022年10月 NPO法人「さくら車いすプロジェクト」と共同で発送

NPO法人さくら車いすプロジェクトを運営する 斎藤 省 氏から、パキスタンの「マイルストーン特別な人のための協会」に電動車椅子に加えて子ども用車椅子を送りたいので提供してもらえないかと2022年9月に打診がありました。当会からは手動車椅子37台をコンテナ積み込み地の坂東市へ届けました。コンテナは10月27日にパキスタンのカラチ港に向けて出発しました。



戦争下のウクライナに3団体協同で車椅子を150台送りました

2023年2月 ロンドン在住のジャーナリスト木村ご夫妻の熱心な要請で実現

ロンドン在住の木村ご夫妻の要請から、戦禍で苦しんでいるウクライナの人たちを支援したいという思いが繋がり、車いすを寄贈している三団体と海運会社、運送会社が協力しました。車椅子の提供は「希望の車いす」「飛んでけ車椅子」、当会の三者で、希望の車いすの谷理事長が取りまとめたのをお手伝いしてくれました。準備できたのは、希望の車いすが110台、飛んでけ！車いすの会が30台、当会が子ども用10台です。送り先は、ポーランドに避難しているウクライナ人の人道支援組織Future for Ukraine Foundation (FFU) です。3月以降にウクライナ西部の子供病院やリハビリ施設などに届けられる予定です。



コンテナが東京港へ向けて出発。



日テレニュースのインタビューに応える「希望の車いす」の谷理事長。



車椅子に加えて医療を目的とした特殊器具もマレーシアに送りました

2023年2月 座位保持、歩行訓練器、立位訓練器、バスチェア、補装具、車椅子、等を発送

マレーシアのパートナーであるAleps Dream Factory代表のサイド氏から、「車椅子以外の治療に役立つ機器を送って欲しい」と要請がありました。通常の車椅子28台、カーシート10個も加えて、特殊器具を載せた本船が2月27日に東京港を出ました。今回の贈呈により、サイド氏の支援の範囲が医療の領域まで広がり、より多くの子どもたちが治療を受けられるようになることを祈ります。これでマレーシアに送った車椅子は1,648台となりました。



12台



19台



5台



6台



183足

下記は、ウクライナ、パキスタン、マレーシアへの贈呈に対して車椅子を提供してくれた主な学校等です

県立鎌倉養護学校 都立大泉特別支援学校 県立川島ひばりが丘特別支援学校 千葉県立桜が丘特別支援学校 都立八王子東特別支援学校
国立千葉東病院 県立座間養護学校 千葉県立船橋夏見特別支援学校 横浜市立北綱島特別支援学校 さいたま市立ひまわり特別支援学校
(上記以外にも、個人により持ち込まれたものもあります)



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

www.kaigaikurumaisu.org